

(株) ラック ICT利用環境啓発支援室 (一財) 草の根サイバーセキュリティ推進協議会 のICTリテラシー啓発取り組み事例

地域・利用者視点による草の根啓発支援活動の取り組み

一般財団法人
草の根サイバーセキュリティ推進協議会
常務理事 吉岡 良平

株式会社ラック
サイバー・グリッド・ジャパン
ICT利用環境啓発支援室



なぜセキュリティの会社が啓発活動をするのか？

情報セキュリティや情報システムで事業を行う事業者はネットが
安心・安全に利用されることが事業基盤を維持する上で重要。

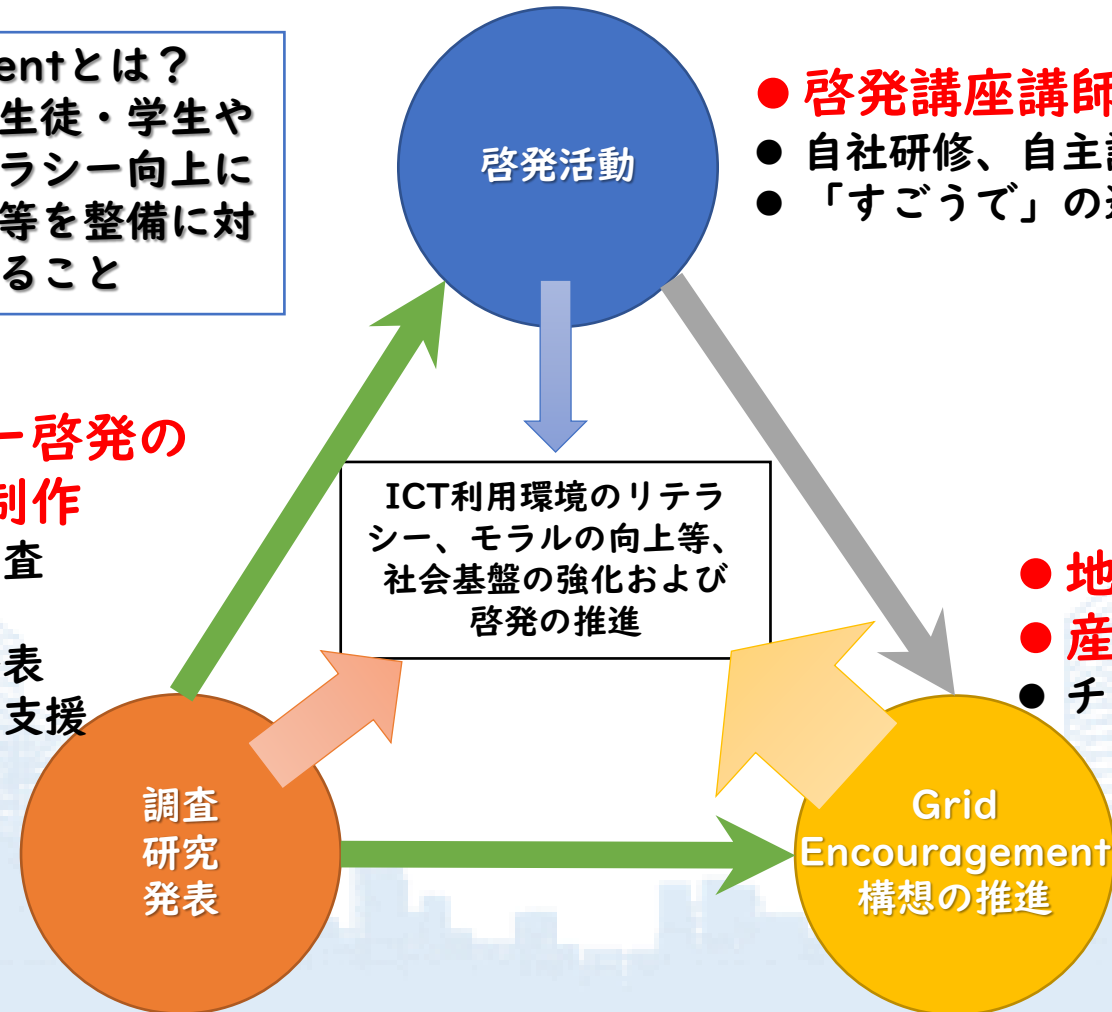
ネット全体の安全性を向上するためには、**地域や利用者の視点で啓発**され、意識の向上が必要。

Grid Encouragementとは？

地域が自ら児童・生徒・学生や保護者、市民のリテラシー向上に寄与する体制・組織等を整備に対して積極的に支援すること

● 情報リテラシー啓発のための羅針盤制作

- 制度・法令等の調査
- 事例収集
- 成果物の発表・公表
- 情報モラル案件の支援



● 啓発講座講師、執筆、取材対応

- 自社研修、自主講座・勉強会の開催
- 「すごうで」の運営

● 地域啓発活動組織化支援

- 産学官連携
- チューター制度

地域に根差した啓発が研究フィールド

長崎県での取り組み（2017年度～）

長崎県サイバーセキュリティに関する相互協力協定

事務局：長崎県警察本部（サイバー犯罪対策課）

サイバーセキュリティ推進校（学校・学生・生徒に委嘱）

リーダー校：佐世保工業高等専門学校

2019年度～
九州エリア高専対象

推進校：県内高等学校 10校（令和4年度）

毎年100名以上の高校生ボランティアを育成

2020年度～
全国高専対象

啓発講座
の実施

出身 小・中学校

地域・小・中学校・教育委員会・消費者センターとの連携

1. 「情報リテラシー啓発のための羅針盤」を活用した小・中学校及び地域関係者対象の情報リテラシー啓発巡廻講座の実施

⇒ 益田市、津和野町、吉賀町の教育委員会連携との情報教育広域連携により、各校がテーマを**羅針盤に掲載された37の項目から選択**したテラーメイドの講座を巡廻で実施

2. 地域情報リテラシー団体の設立と啓発活動

⇒ 北海道名寄市において、消費者センターの依頼による消費生活講座から始まり、市民講座の実施、地元警察署署員の研修などに啓発の輪が広がる。**胆振地震とブラックアウトをきっかけに**、ICTを安心・安全にかつ積極的に活用することの重要性が増したことにより、**名寄ネットコミュニケーション活用研究会**が立ち上がり、**地域住民がeネットキャラバンの講師資格を取得、自らの地域の学校講座を実施**するとともに、北海道総通局や北海道警と情報交換を行なっている

動画制作によるリテラシー講座

1. 情報モラル講座
2. 動画制作上のルール
3. 作りたい動画の企画会議
4. 素材の撮影
5. 動画編集ソフトの演習
6. 動画制作
7. 動画投稿・発表



動画シナリオシート

テーマ: _____

誰に見てもらおう?: _____

どんな動画にしたい?: (雰囲気・音楽の曲調・見ている人に何を伝えたい?) _____

ナレーションの有無: あり / なし

動画の長さ: _____分 _____秒

©LAC Co., Ltd. All rights reserved.

2019/8	島根県益田市	小中学生対象
2019/8	広島県福山市	高校生CM甲子園 応募校対象
2020/1	静岡県浜松市	中学生対象
2020/11	静岡県浜松市	高校生対象
2021	静岡県浜松市	高校生対象
2022	島根県益田市	中学生対象

マーケティングによるリテラシー講座

自分たちの地域を「買いたい!知りたいたい!やりたい!行きたい!」とお客さんが思ってくれるようにするための仕組みや活動⇒**ファンをつくること**

地域の情報を収集、数値化、分析⇒データサイエンス

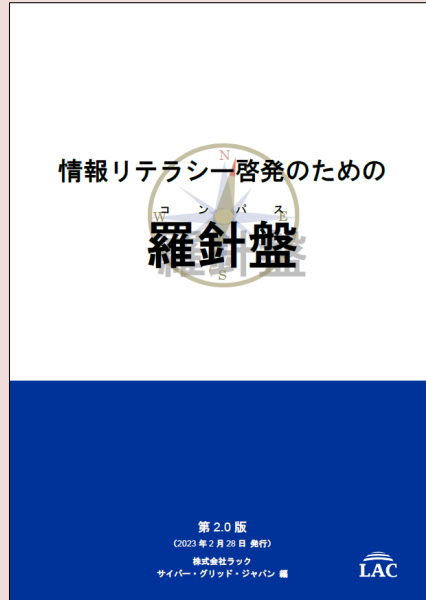
- | | |
|---|-------------------|
| 1 | アピールしたいものを決めよう |
| 2 | SWOT分析を一緒にやってみよう |
| 3 | 探究グループでSWOT分析をやろう |
| 4 | アイデアをまとめよう |
| 5 | 発表 |

研究成果

情報リテラシー啓発のための羅針盤（コンパス）

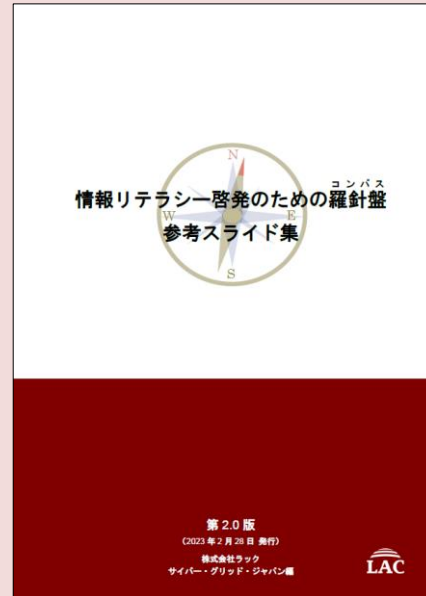
「本編」・「参考スライド集」・「情報活用編」と「使い方ガイド」

情報リテラシー啓発のための羅針盤



- 3分野37項目のインシデント別に啓発すべき内容を記載
- インシデント項目ごとに啓発内容や関係法令、事例等を分かりやすく解説

情報リテラシー啓発のための羅針盤 参考スライド集



- 啓発講座を行う際に使えるスライド集(羅針盤の内容を反映)
- インシデント項目ごとに羅針盤の内容を踏まえた参考スライドを用意

情報リテラシー啓発のための羅針盤 情報活用編



- ICTや情報メディアの活用について整理し啓発すべき内容を記載
- ICTや情報メディアの活用の中で発生するインシデントについて既存「羅針盤」と連携

情報リテラシー啓発のための羅針盤 使い方ガイド



影の側面 (インシデント)

光の側面 (情報活用)

https://www.lac.co.jp/lacwatch/media/20230228_003293.html

株式会社ラック 羅針盤



情報リテラシー啓発のための羅針盤（コンパス）

情報リテラシー啓発のための



羅針盤

第 2.0 版

(2023 年 2 月 28 日 発行)

株式会社ラック
サイバー・グリッド・ジャパン 編



1. 学術的根拠（情報リテラシー啓発に関するエビデンスや実践結果）のみならず、法教育（法的なものの考え方を身につけるための教育）の視点に基づいた監修を実施

監修（50音順）

お茶の水女子大学

甲南大学法科大学院

広島大学大学院

成城大学

北陸学院大学

坂元 章 教授（心理学：社会心理学）

園田 寿 教授（法学：刑法、サイバー法）

匹田 篤 准教授（理学：社会情報学、メディア論）

町村 泰貴 教授（法学：民事手続法、サイバー法）

村井 万寿夫 教授（教育学：教育メディア学）

2. 情報リテラシーに関するインシデントを、「情報モラル」「情報セキュリティ」、「消費者トラブル」の3つの分類に分け、37項目で整理

3. 様々な世代（子供から高齢者まで）や立場（保護者、教育関係者）に対する情報リテラシー啓発に対応

デジタル社会の到来にむけ2月28日に第2版発行

羅針盤で定義する37のインシデント

【情報モラル】

1. デマ・フェイクニュースを発信すること
2. 炎上させること
3. ネット依存
4. 健康被害
5. 誹謗中傷
6. 不適切投稿
7. ネットいじめ・ハラスメント
8. 犯罪予告
9. 著作権侵害
10. 肖像権侵害
11. プライバシー権侵害
12. ネット選挙運動違反
13. 出会い系サイトに起因する犯罪被害
14. SNS等に起因する犯罪被害
15. リベンジポルノ
16. 児童ポルノの製造、所持、頒布
17. 違法・有害コンテンツ
18. チート行為
19. 不必要な位置情報の付与
20. SNS公開範囲設定の誤り
21. フィルタリングやペアレンタルコントロール（OSの機能制限等）の未利用

22. ながらスマホ（歩きスマホ・運転中のながらスマホ等）

【情報セキュリティ】

23. 偽警告
24. 不正アクセス
25. フィッシング
26. ウイルス（マルウェア）作成・提供・保管
27. ウイルス（マルウェア）感染
28. 情報漏えい（機密情報・個人情報等）
29. OSやアプリの未更新
30. 不十分なID/パスワードの取り扱い
31. 機器の紛失・破損

【消費者トラブル】

32. 迷惑メール
33. 有害広告
34. 架空請求・不正請求
35. 高額課金
36. 情報商材
37. オンライン売買仲介サービスでのトラブル（インターネット・オークション、フリマにおけるトラブル）

第2.0版

(2023年2月28日発行)

株式会社ラック
サイバー・グリッド・ジャパン



情報活用編の25項目

【基本操作】

1. 電子メール（E-mail）を受け取る・送る
2. 写真や動画を撮る・編集する
3. オンライン通話（ボイスチャット）をする
4. 検索をする
5. Wi-Fiを利用する

【情報を発信・提供する】

6. SNS（Social Networking Service）を利用する
7. 動画を視聴する・配信する
8. GPS（Global Positioning System：全地球測位システム）を使う

【遊ぶ】

9. ゲームをする
10. 電子書籍を読む
11. イラストを描く・音楽を作る・小説を書く

【学ぶ・働く】

12. オンライン学習をする
13. プログラミングをする
14. テレワークをする

15. 業務アプリ（文書作成、表計算、プレゼンテーション支援等）を使う

16. グループウェアを利用する

【売る・買う】

17. ネット通販を利用する

18. オンライン売買仲介サービスを利用する

19. 電子決済をする

20. 暗号資産（仮想通貨）を使う

21. インターネット広告を利用する

【暮らす（ICTをもっと活用する）】

22. スマート家電を使う

23. スマートウォッチを使う

24. フィルタリングやペアレンタルコントロール（OSの機能制限）を使う

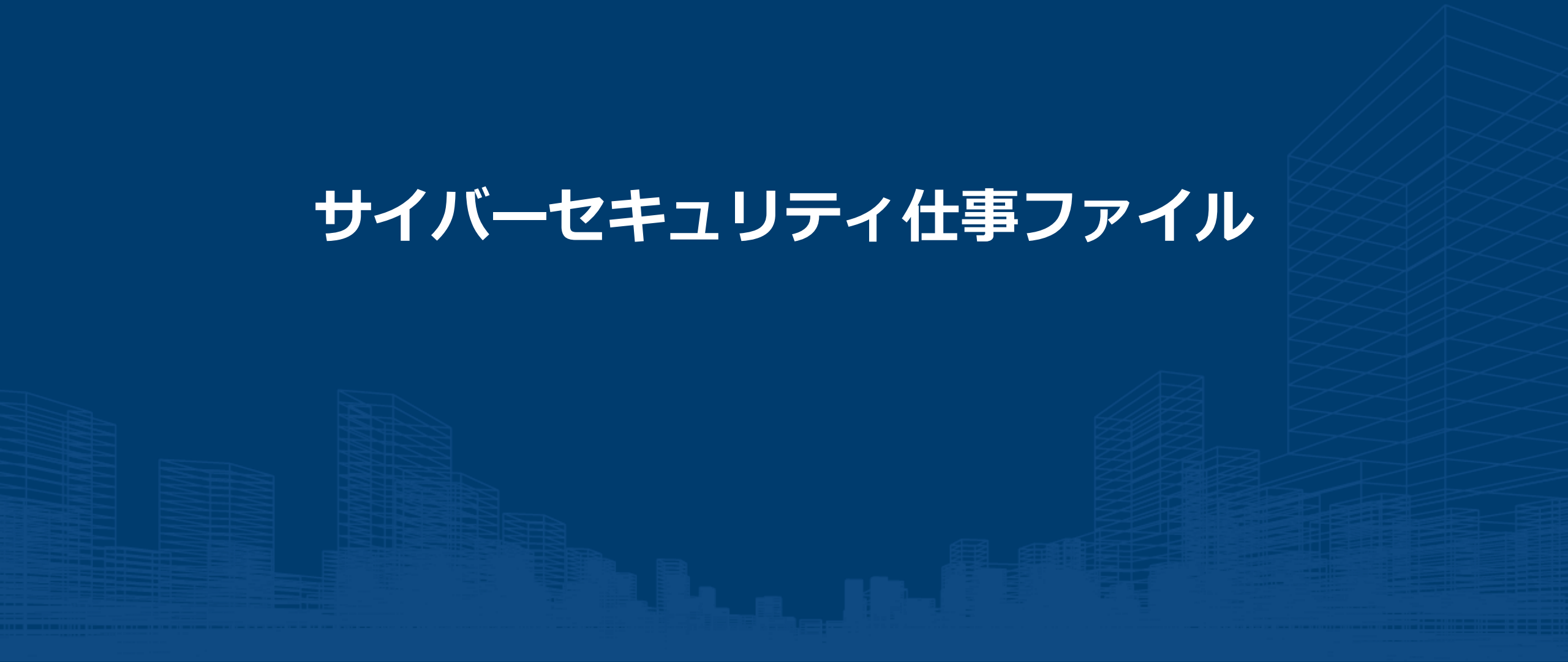
25. 便利なアプリ（電卓、翻訳、レコーダー等）を使う

第 1.0 版

（2020 年 9 月 30 日 発行）

株式会社ラック
サイバー・グリッド・ジャパン編

サイバーセキュリティ仕事ファイル



(参考) 子どもたちが将来なりたい職業

1	プロスポーツ選手
2	ユーチューバー (You Tuber)
3	イラストレーター
4	美容師
5	保育士
6	医師
7	パティシエ
8	警察官
9	声優
10	臨床心理士

※ITに限らず、エンジニアや技術者など、技術者志向の子どもたちは決して多くない

30位 ゲームプログラマー
48位 プログラマー
81位 エンジニア

「13歳のハローワーク公式サイト」より人気職業ランキング (2022年12月1日~12月31日)
<https://www.13hw.com/jobapps/ranking.html>

上位100位に「サイバー」や「セキュリティ」という名前がつく職業は載っていない

サイバーセキュリティ仕事ファイル概要

子どもたちがなりたい職業の上位100位に「サイバー」や「セキュリティ」という言葉がつく職業がない

LAC

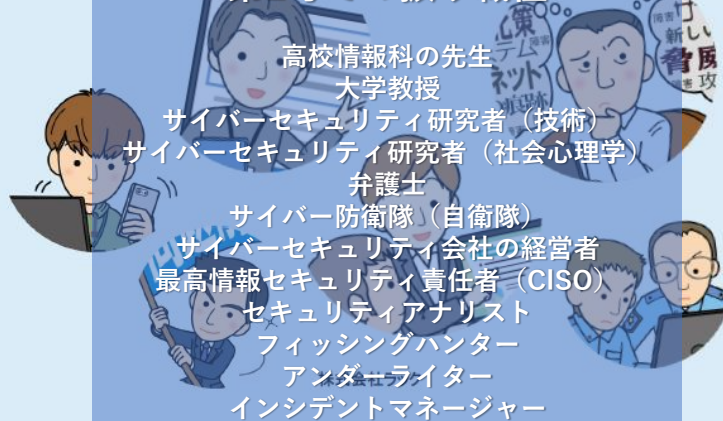


3月14日第2号発行

サイバーセキュリティ 仕事ファイル ①

～みんなが知らない仕事のいろいろ～

第2号での扱う職種



目的	サイバーセキュリティの仕事の子供たち向けに紹介、セキュリティに興味を持ってもらい、将来の職業選択の一つとしてエントリーする
開始時期	2020年9月～
公開時期	2022年2月
公開方法	冊子・PDF
対象	主に小学校高学年～中学生
職種	第1号発行 (12職種)
文字数	1000～1400文字
監修	村井 万寿夫 北陸学院大学 教授 佐藤 豊彦 国立大学法人鹿児島大学特任教授 兼 株式会社ラック

インシデントハンドラー	ゲームセキュリティ診断士
コンピュータフォレンジッカー	情報システムペネトレーションテスター
プラットフォーム診断士	IoTデバイスペネトレーションテスター
Webアプリケーション診断士	セキュリティコンサルタント
サイバー犯罪捜査官	脅威情報アナリスト
セキュリティインストラクター	リスクマネジメント (リスクマネージャー)

Grid Encouragementを目指した 啓発団体での活動

啓発を主にした団体活動

地域における啓発活動を後方から支援する団体活動

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会（Grafsec）

代表理事：佐々木 良一 東京電機大学研究推進社会連携センター総合研究所特別専任教授

【主な活動】

- ① 全国大会/会員連絡会の開催 ※現在はオンラインに切り替えて実施
- ② 助成事業（助成総額約150万円/年 3～5件採択/年）
- ③ 少額支援制度（全国会員に年間3～5万円の活動支援）
- ④ 地域支援活動
- ⑤ サポーター検定
- ⑥ 若年層ファシリテーターの育成・高校生ICT Conference 共催

※一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会は、一般社団法人セキュリティ対策推進協議会（SPREAD）と合併し、令和4年12月1日より「一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会（略称は「Grafsec」）」として発足いたしました。

内閣サイバーセキュリティ戦略本部（NISC）による「サイバーセキュリティ意識・行動強化プログラム」において、Grafsecの取組に関しても記載されており、地域の「共助」の考え方に基づく課題解決・付加価値創出が行われる場を形成し、活用していく取組が望まれている。



全国会員・一般会員

※2023年1月31日時点

全国会員 27都道府県47団体 ※都道府県順

【北海道】

- ・ 特定非営利活動法人ぐるぐるネット
- ・ 名寄ネットコミュニケーション活用研究会
- ・ 北海道情報セキュリティ勉強会

【青森】

- ・ 子どものネットリスク教育研究会

【岩手】

- ・ 特定非営利活動法人インクルいわて

【宮城】

- ・ 東北情報セキュリティ勉強会

【秋田】

- ・ 特定非営利活動法人 ノースウインド

【茨城】

- ・ 茨城県メディア教育指導員連絡会

【埼玉】

NetMam

【千葉】

- ・ NPO浦安防犯ネット(UBN)

【東京】

- ・ エンジェルズアイズ
- ・ 子どもとメディア関東
- ・ 特定非営利活動法人シニアSOHO普及サロン三鷹

【神奈川】

- ・ 特定NPO法人 湘南ふじさわシニアネット

【新潟】

- ・ サイバー空間の脅威に対する新潟県産学官民合同対策プロジェクト推進協議会 (略称:サイバー脅威対策協議会)
- ・ 特定非営利活動法人 新潟情報セキュリティ協会

【福井】

- ・ 一般社団法人日本情報モラル推進機構

【長野】

- ・ あづみの文字情報サポートネット
- ・ ビーキューブこども会 (BeeCube codomo)

【静岡】

- ・ 特定非営利活動法人 e-Lunch (イーランチ)
- ・ 特定非営利活動法人静岡パソコンサポートアクティビティ
- ・ 特定非営利活動法人 浜松子どもとメディアリテラシー研究所
- ・ NPO法人まちづくりネットワークWILL
- ・ 三島スマホ安心アドバイザー

【愛知】

- ・ 一般社団法人 安心安全インターネット塾
- ・ 名古屋情報セキュリティ勉強会

【三重】

- ・ くわなPCネット
- ・ PCシエル(三重県)

【京都】

- ・ 花パソ

【大阪】

- ・ 大阪私学教育情報化研究会
- ・ 子どもとネットを考える会
- ・ パソコンボランティアWing

【奈良】

- ・ 特定非営利活動法人電子自治体アドバイザークラブ
- ・ 特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所

【和歌山】

- ・ NPO情報セキュリティ研究所

【島根】

- ・ NPO法人 プロジェクトゆうあい
- ・ 益田市情報リテラシー向上推進協議会

【広島】

- ・ ネットセーフティ広島
- ・ 一般社団法人百人邑
- ・ 広島市電子メディア協議会

【香川】

- ・ 香川県難聴児(者)親の会
- ・ セキュリティうどん

【愛媛】

- ・ 特定非営利活動法人 ぶうしすてむ

【佐賀】

- ・ 特定非営利活動法人 ITサポートさが

【鹿児島】

- ・ 特定非営利活動法人鹿児島インファーマーション
- ・ 一般社団法人鹿児島県サイバーセキュリティ協議会

【沖縄】

- ・ ネットいじめパトロール隊

全国各地でサイバーセキュリティ、情報モラル啓発活動を実施

一般会員 305名

※当法人の目的、事業に賛同する個人で、「SPREAD情報セキュリティサポーター能力検定」に合格し、かつ合格後1年以内に別途定める「情報セキュリティサポーター憲章」の遵守を誓った個人。



SPREADサポーター検定

- SPREAD情報セキュリティサポーター能力検定
- ICTに関する基礎知識とセキュリティに関する知識を認定
- 2つのレベル
 - サポーター（一般クラス） 年2回程度
 - サポーターとしての活動ができる
 - 4択問題、50問・50分
 - マイスター（上級クラス） 年2回程度
 - サポーターをサポートできるレベル
 - 4択問題、30問・45分



内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）が発行している、

- インターネットの安全・安心ハンドブック
(<https://security-portal.nisc.go.jp/handbook/>)
- 小さな中小企業とNPO向け情報セキュリティハンドブック
(https://security-portal.nisc.go.jp/blue_handbook/)

を検定受験のテキストとして推奨

● サポーターからマイスターへの道



サポーター検定合格者：
1,546名
(2022年12月1日時点)

新しい課題や最新の情報が届かない

- ウォーターフォール型の情報伝達の限界
- ラストワンマイルに情報を届ける仕組みの必要性
- デジタル社会形成基本法、デジタル手続法時代のシニア層のICTリテラシー向上

地域団体の後継人材の不足

- ファシリテーター、アドバイザー養成のための仕組みと講師の確保
- 新たな地域人材や幅広い世代が参加できる仕組みづくり

ICTを知る仕組みと相談できる場づくり

- デジタル社会、GIGAスクール時代に大人も子供も共に学べる場づくり
- ネットのトラブルが発生したときに相談できる一本化された窓口の構築を目指す



※本資料は作成時点の情報に基づいており、記載内容は予告なく変更される場合があります。

※本資料に掲載の図は、資料作成用のイメージカットであり、実際とは異なる場合があります。

※本資料は、弊社が提供するサービスや製品などの導入検討のためにご利用いただき、他の目的のためには利用しないようご注意ください。

※ LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。